



# 幸樹

こう じゅ

## 第69号

2020年12月1日



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵 井上 忠司 愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングの魅力に夢中になり、10年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者でした。

**さんしょうクリスマス会** 12/15 (火)、岡野牧師のお話、職員ハンドベル部・マジックなど。#新型コロナウイルス感染対策のため、当日のさんしょうご利用者・職員のみで行います。

生田さん（仮名）ご夫婦にお聞きしました

## 「私らバカ夫婦なのよ」

河原塚在住の生田初枝さん（81歳、仮名）。非結核性抗酸菌症という肺の病気のため酸素吸入器を24時間装着し、栄養性消耗の軽減のため6時間かけて高カロリー点滴を週3日自宅で実施しています。ご主人・富雄さん（79歳、仮名）と二人暮らしです。家の中を動くだけでも息苦しくなるので、富雄さんが掃除・洗濯・買物などの家事全般に加え、初枝さんを付きっきりで介護しています。初枝さんが「あきれくらい細かい介護してくれるバカ親父なのよ」と言うと、富雄さんが「はい、バカ親父です！怒るくらい元気なのうれしいんだよ」と返します。二人で「私らバカ夫婦なのよ」と漫才コンビのような仲の良いご夫婦です。

### 結婚を反対され、駆け落ち決行

初枝さんは千葉県香取郡で、女3人男1人の兄弟の3番目に生まれました。父親は「女は手に職をつけるもの」との考え方で、初枝さんもそれに従い、洋裁学校4年、理容の学校1年通って、従妹が経営する青戸の床屋に就職、支店が松戸にもあったため、青戸と松戸の両方で働きました。

当時19歳の初枝さんは、店の看板娘となっており、週に数回通って好意を寄せられる男性が3名ほども。その中に学生だった富雄さんがいました。富雄さんは週2回も通って猛アピール。初枝さんは当時17歳の富雄さんに魅かれてお付き合いするようになりました。松戸が実家の富雄さんは7人兄弟の真ん中で、母親も床屋の娘で、家族は「床屋さんに好かれるのはいい男だ」と初枝さんとの交際を喜んでくれました。

ところが、初枝さんの父親は、初枝さんと美容院の学校を出て渋谷で美容師として働いていた妹さんが、二人で店を出すことを願っていました。二人の交際の話聞きつけ、初枝さんの父親は、「そんなこと許さない」と初枝さんを連れ戻しにきました。

そこで二人は、駆け落ちを決断、実行しました…。

それから1~2年、富雄さんの兄弟の家を転々、居候生活を続けました。無職でお金もなく、あてもない二人の面倒をご富雄さんの兄弟姉妹はよく見てくれました。しかし、逃げ回っていても仕方ないと、最期は富雄さんの兄が、初枝さんの父親に真摯に懇願してくれたおかげで許しをもらい、二人は晴れて結婚することができました。

### 仕事も生活も、一生懸命まじめに

初枝さんに、松戸の農家から「貸家もあるので、床屋を手伝ってほしい」という話があり、受けることになりました。家作は店の裏で6畳、4畳半、やっとな

を据えて住める場所ができました。富雄さんも商品管理の職場に就職。当時は仕事も沢山あって残業も多く、ボーナスもあり、貯金も順調にできました。初枝さんの床屋も繁盛しました。初枝さん27歳、富雄さん25歳の時に、男の子も授かって、生活は順調に進んでいました。



床屋時代の初枝さん（仮名）。  
「また、床屋やりたい」と

## 波乱の人生。これからも頑張る

しかし、子育てしながら床屋を続けることでの喧嘩も絶えませんでした。床屋の片隅で居眠りをしている我が子を見るのが富雄さんには切なく、やはり初枝さんに子育てを優先してほしいという思いが強くあったのです。

結局その後、初枝さんは床屋をやめ、店は妹に引継いでもらい、柏に家建て、専業主婦として子育て中心の生活を送ることにしました。その後、子供が小学校3年生になるころには、「働き者」の性が動き出し、スーパーでパートとして働き始めました。もっと条件の良いところということで、パンの製造工場に移り、正社員として10年働きました。手先が器用ということもあり、その工場ではとても頼りられました。

富雄さんも会社で頼りされ、仕事も順調でした。縁あった不動産さんに世話をしてもらい、柏の家を売って、現在の松戸河原塚に新しい家建てることしました。初枝さん44歳、富雄さん42歳でした。初枝さんは、転居に伴いパン工場を辞めました。富雄さんは、20代から働いていた会社で55歳まで働き、次に紹介を受けた会社で60歳まで働き、60歳から70歳までパートでその会社の運転手として働いていましたが、初枝さんの病気がわかって、介護・家事をやるうと、仕事を辞めました。

### みんなが応援してくれるから元気に

富雄さんは、「自分はバブル前の経済高度成長の時代で就職に困ることはなかった。残業も多く、ボナ

スももらえて貯金もできた。退職金もきちんと支給された。失業やリストラなんて考えず、まじめに働いていれば良い時代だった。会社の保養所が全国にあったので、家族をつれてあちこち行った。今、コロナ禍で、お母さんの病気もあって、旅行なんて行けなくなったけど、テレビでみる所は、だいたい行ったことがあるから話題にできて良かった。夫婦仲いい秘訣は、“お母さん、元気、大好きだよ、良かった”って口に出して言うこと。金がかかることじゃないし、言葉に出していうことが大事なんだ。自分の母親も床屋の娘で、結核を患って体が弱かった。だから、お母さんが元気でいてくれるだけでうれしい。“馬鹿じゃないの”っていわれてもその元気があるだけで幸せだよ」と話します。

初枝さんは、「床屋の仕事はもっとやりたかった。今でも、お父さんの髪を切ってあげている。主治医の斎藤先生にも、私が切ってあげたいくらい。具合悪くなる前は、頼まれてボランティアで調髪に行っていましたよ。今は病気があって、自分のことも思うようにできないことが多いけど、お父さんが、気が利きすぎるくらい、なんでもしてくれます。“バッカじゃないの”って言うけど、私がないと、お父さんがダメになっちゃうから、私が頑張らないといけないね。

息子夫婦も埼玉にいるけど、このコロナ禍のことあって、自分たちから病気うつたら困るって、松戸の家に来て窓越しで顔見せて、家に入らなかつたりするの。私の病気は大変だけど、みんなが応援してくれているから、元気でないとね」と語ります。

(聞き手・大塚かすみ)

ケアマネ



のこころ

あんず居宅介護支援事業所  
ケアマネジャー 岩橋 多恵子

2020年11月15日、幸樹会設立当初よりあんず畑をはじめ大変お世話になった吉岡信太郎さんが、満94歳の生涯を全うされました。

## 「吉岡先生の宿題」

私はこの『幸樹』で幸樹会の理念や取り組みを知り、共感し入職を希望しました。中でも第28号(2017年7月号)の吉岡さんへのインタビュー記事はとても印象深く「こんなすごい方がいるんだ!」と驚嘆したのを覚えています。入職する10ヶ月前のことで、その後ケアマネジャーとして担当させていただけるとは、ご縁を感じずにはられません。

吉岡さんのご自宅には、海軍飛行予科練習生時代の凛々しいお写真、日本体操協会の公認審判員として参加された1964年東京オリンピックでの公式審判員証

やメダルなど大切に保管され、さながら歴史博物館のようでした。都立高校の体育教師をされていたときは私の両親が通っていた高校に赴任されていたことも知り、共通の話題で会話も弾みました。

日中は暑い日も寒い日も毎日畑に行かれ、私たちが忙しさにかまけて畑の手入れを怠っていると、「雑草を抜かなきゃだめだよ」「土がカラカラだよ」とお電話くださり、一緒に手伝ったりもしていただきました。

また二世帯住宅に暮らす息子さん家族に代わって、宅配便を受け取ったりなど忙しい毎日を過ごされていました。息子さんからも「とても優しい家族思いの父だった」と伺っています。

また日頃の生活の中に常にトレーニングの機会を見出されていました。週1回、三和病院のデイケアに電車とバスで通われていましたが、送迎サービスの利用をお勧めすると、その行き帰りもリハビリの一環と考えていらっしゃいました。

そんな吉岡さんも昨年93歳のお誕生日を迎えたときは「岩橋さん、93歳になったら一日一日が1ページだよ」と仰いました。その言葉の本当の意味は、未熟者の私にはまだまだ計り知れませんが、今でも心の中にあります。

久し振りに吉岡さんの記事を読み返しハッとさせられました。「時にはわがままに見える言動は、どこから来ているのか、今の状況はなぜ生まれたのか、そういうところから考えていくとよいのではないのでしょうか」

日々の業務の中でたくさんの壁にぶち当たり、思い通りにいかないことの方が多くのように感じます。そう感じるときは実は一人よがりになっているのかもしれない。吉岡さんの言葉でまたひとつ大切なことに気づくことができました。

私たちはみんな、吉岡さんの人生の教え子です。私は吉岡先生にたくさんの宿題を出してもらいました。答えを出すには何年も何十年もかかるかもしれませんが、それでもいつか◎をもらえるよう頑張っていきたいと思います。これからも見守ってくださいね。

## 芋ほい・落花生ほい

11月20日は、吉岡さんにお借りしているあんず畑で芋ほり大会。いっしょに育てた落花生も掘りました。さんしょうご利用者、子どもさんたちが秋晴れの



下、楽しみました。「初めて落花生が土の中で育っているのを見た」と車椅子から手を伸ばして掘り、しみじみ眺めているご利用者もいました。



## デンマーク便り...③①

ラスムッセン 京子

デンマーク政府は11月4日、飼育ミンクから新型コロナウイルス変異種が見つかり、それが再び人にも感染したことも確認されたので、蔓延を阻止するために国内の飼育ミンク約1300万匹超を殺処分するよう通達しました。ところが憲法上、政府の指示は法的根拠がないことが明らかになり、農業従事者の怒りをかっています。家畜間で感染病が拡大するのを阻止するために、感染している特定の農家の家畜を殺処分する命令は憲法違反ではありませんが、他地域のミンクを全て殺処分する命令は法的根拠がありません。ユトランド半島でしか感染が発生していないのに、例えばボーンホルム島のミンクを殺処分せざるを得なかった飼育農家が、命令は憲法違反であった事を知り憤慨しているのです。

ジェンセン農林水産大臣は11月18日、激しい批判を受けて辞任を発表しました。国会では、フレデリックセン首相の責任も追及されています。

### ミンク感染、農家は大変



農家のトラクターデモ



殺処分されたミンク

ミンク農家は生活の糧を奪われ、補償金額も決まらず、補償金が支給されたとしても、今後の農業の道を模索しなければなりません。政府に対する農家の怒りはおさまりません。デンマークでは農業は重要な産業の一つです。感染者が多い北ユトランド半島の一部の街では11月6日から町全体が閉鎖され、その街に行くことも、街から出ることも出来なくなっています。この地方のミンク農家の働き手には外国人労働者が多く、その人たちが休みを利用して母国に帰り、再び戻ってきてから感染者が増加しています。東欧諸国出身者が多いようです。

巷では感染者が拡大しています。新規感染者が昨日11月20日は1257人でした。現在重症者は全国で40人です。若い人たちの間でも感染が拡大しています。ほとんどが無症状で、学生寮等の共同台所や食堂の在り方が問題になっています。

明るいニュースは、デンマーク厚生省が審査しているDNAの新型コロナウイルス予防注射が12月から最後の臨床試験である人間への投与を始める段階までに至ったということです。

### 幸樹会館周辺の晩秋風景から



欒並木の1本



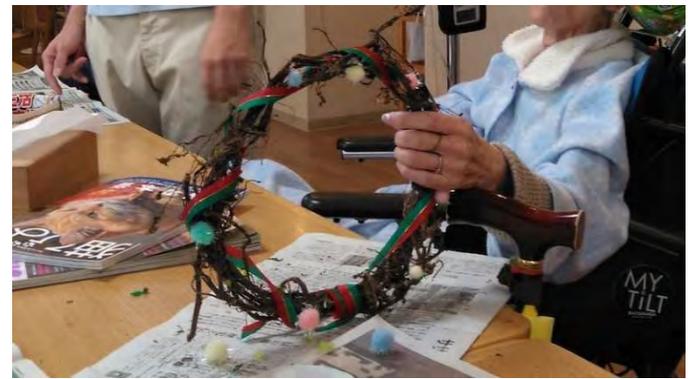
柿と柚子



見事なピラカンサ



赤や黄色の♪



さんしょうでは、リースづくり



### 八柱学習会

●前回報告11月20日(金)、助言者：武井幸穂氏  
「地域ケアの変遷と未来-1975~2020の時代体験と実践から語る①」  
お話・武井幸穂氏



参加者19名。連続話

の前の「肩慣らし、脳こなし」のための自己認識等の分析・診断方法を試してみました。

▼次回学習会予定(「定例日：毎月第3金曜日」)  
12月18日(金)18:30~、あつまーれ幸樹  
「地域ケアの変遷と未来-1975~2020の時代体験と実践から語る①」お話・武井幸穂氏 《参加自由》

今月の屋上太陽光発電量は、

839KWh



幸樹会館電力使用量4255KWh 自給率19.71%

### 職員募集！非営利・働きがいある職場 看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり  
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550